

FY 2019 / JGP2020

2020年3月期 第2四半期 決算説明資料

2019年11月15日

株式会社日本製鋼所  
代表取締役社長 宮内 直孝

**JSW**

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

注意書きが無い場合、「前回予想」は2019年5月17日に開示した数値です。

## PART I

## 2020年3月期 第2四半期実績

- 05 受注高・売上高・利益の状況
- 06 営業利益増減要因
- 07 セグメント別
- 08 産業機械事業
- 09 素形材・エネルギー事業
- 10 設備投資・減価償却費、キャッシュ・フロー、財務体質、研究開発費の状況

## PART II

## 2020年3月期 通期計画

- 12 受注高・売上高・利益の計画
- 13 営業利益増減要因
- 14 セグメント別
- 15 産業機械事業
- 16 素形材・エネルギー事業
- 17 受注残高の推移

## PART III

## 中期経営計画「JGP2020」と事業概況

- 19 「JGP2020」と2030年のありたい姿
- 20 JGP2020 3つの基本方針(重点課題)
- 21 JGP2020 数値計画の見直し
- 22 産業機械事業 主要製品の見直し
- 23 フィルム・シート製造装置の事業概況
- 24 造粒機の事業概況
- 25 マグネシウム射出成形機の事業概況
- 26 ①-1 経営資源の最適化 素形材・エネルギー事業「新生」への取り組み
- 27 ①-2 アライアンスの強化 プラスチック加工機械
- 28 ①-3 アライアンスの強化 フィルム・シート製造装置のM&A

- 29 ②-1 アフターサービスの強化 売上比率の拡大
- 30 ②-2 アフターサービスの強化 重点項目
- 31 ③-1 新事業探索・育成 6分野における取組み
- 32 ③-2 新事業探索・育成 結晶事業の事業拠点再編

## 参考資料(35～38):

2020年3月期:主要製品別業績の開示区分変更 / 売上高・営業利益・純利益の推移 / 主要な財産状況・キャッシュ・フローの推移 / 日本製鋼所企業行動基準(2018年4月1日 改正)

事業セグメント	素形材・エネルギー事業		産業機械事業		その他事業				
製品事業部	鉄鋼事業部		機械事業部、成形機事業部、FPD装置事業部、特機本部		新事業推進本部				
生産拠点	<p style="text-align: center;">室蘭製作所</p> 		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>広島製作所</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>横浜製作所</p>  </div> </div>						
製品	<p><b>【鑄鍛鋼製品】</b></p> <p>○電力・原子力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・反応容器部材（シェル、ヘッド他）</li> <li>・ローター軸</li> <li>・タービンケーシング</li> <li>・蒸気発生器部材</li> <li>・その他発電用部材</li> </ul>  <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石油精製用圧力容器</li> <li>・アフターサービス</li> <li>・金型用鋼</li> <li>・製鉄用圧延ロール</li> <li>・その他鑄鍛鋼品各種</li> </ul> <p><b>【クラッド製品】</b></p> <p>○クラッド鋼板・鋼管</p> 		<p><b>【樹脂機械】</b></p> <p>○樹脂製造・加工機械</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・造粒機</li> <li>・フィルム・シート製造装置</li> <li>・二軸混練押出機（TEX・TEK）</li> <li>・アフターサービス</li> </ul>  <p>○成形機</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスチック射出成形機</li> <li>・中空成形機</li> <li>・マグネシウム射出成形機</li> <li>・アフターサービス</li> </ul>  <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防衛関連機器</li> <li>・鉄道製品</li> <li>・その他産業機械各種</li> </ul> <p>○圧縮機</p> <p><b>OFPD装置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レーザアニール（ELA）装置</li> <li>・アフターサービス</li> </ul> 		<p><b>【新事業】</b></p> <p>航空機</p> <p>水素</p> <p>結晶</p> <p>成膜</p> <p>機能材料</p> <p>金属材料</p>				
市場	電力・鉄鋼	石油・天然ガス	自然エネルギー	石油化学	産業機械	自動車	IT	防衛	新事業





# 2020年3月期 第2四半期実績

## PART I



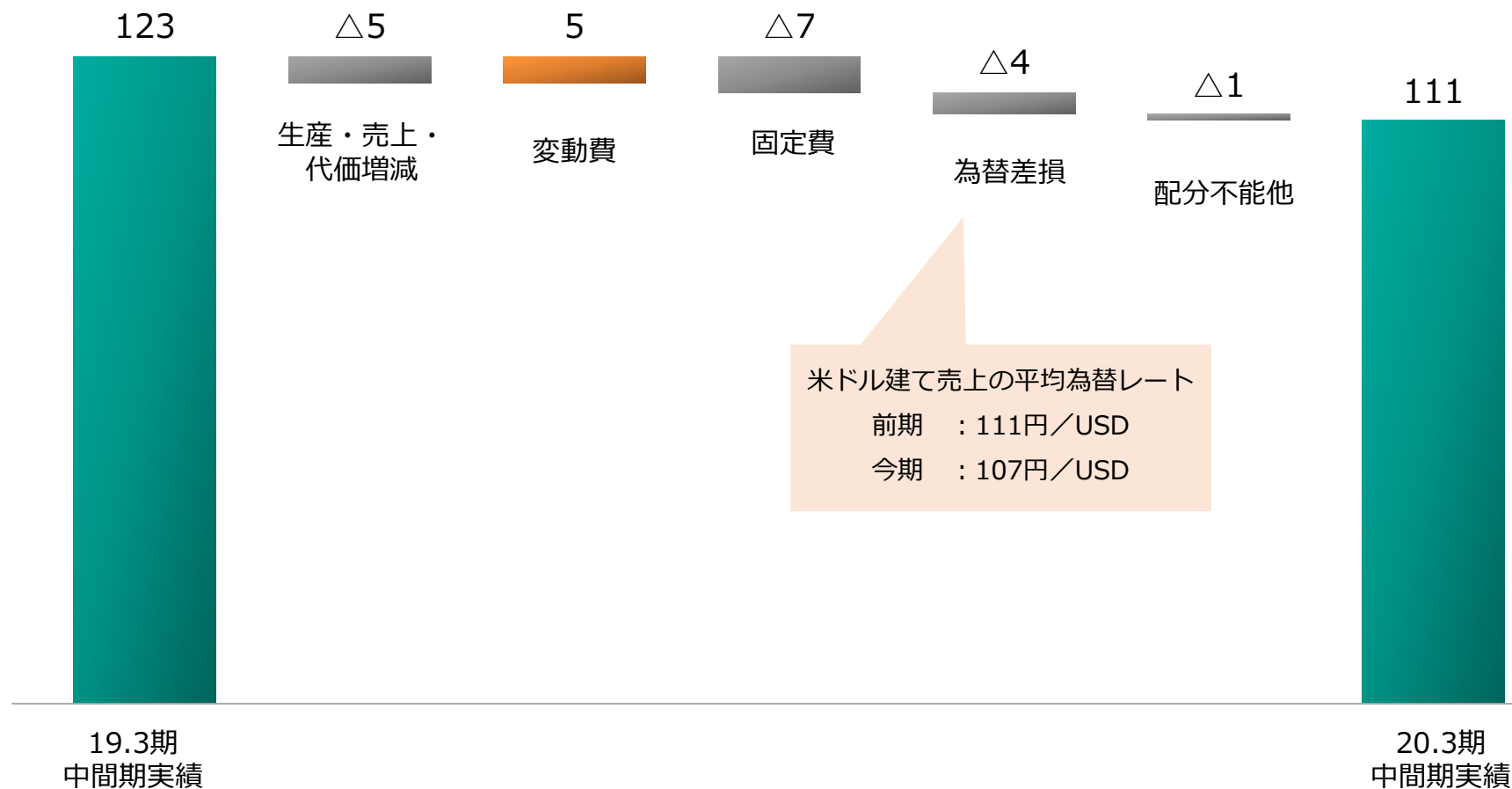
前年同期比で売上高、営業利益、受注高とも減少。

(単位：億円)

	19.3期 中間期 実績(A)	20.3期		前期比 (C)-(A)	当初予想比 進捗率 (C)÷(B)
		通期 当初予想(B)	中間期 実績(C)		
受注高	1,237	2,350	<b>1,128</b>	△109	48.0%
売上高	1,096	2,250	<b>1,062</b>	△34	47.2%
営業利益 (率)	123 11.2%	190 8.4%	<b>111 10.5%</b>	△12 △0.8%	58.4% -
経常利益	136	200	<b>121</b>	△15	60.5%
純利益	119	140	<b>52</b>	△67	37.1%
1株当たり 純利益 (円)	162.52	190.50	<b>70.82</b>	109.17	37.2%
1株当たり 配当金 (円)	25.0	55.0	<b>27.5</b>	2.5	50.0%

## 生産・売上・代価増減や固定費の悪化によって減益。

(単位：億円)



営業利益は両セグメントとも前年同期比減。受注高は素形材で増加。

## 産業機械事業

(単位：億円)

	19.3期 中間期 実績(A)	20.3期		前期比 (C)-(A)	当初予想比 進捗率 (C)÷(B)
		通期 当初予想(B)	中間期 実績(C)		
受注高	1,037	1,900	865	△172	45.5%
売上高	849	1,800	872	23	48.4%
営業利益	115	200	107	△8	53.5%
(率)	13.5%	11.1%	12.3%	△1.3%	-

## 素形材・エネルギー事業

	19.3期 中間期 実績(D)	20.3期		前期比 (F)-(D)	当初予想比 進捗率 (F)÷(E)
		通期 当初予想(E)	中間期 実績(F)		
受注高	165	400	242	77	60.5%
売上高	221	400	166	△55	41.5%
営業利益	18	20	14	△4	70.0%
(率)	8.1%	5.0%	8.4%	0.3%	-



受注高は成形機の市況悪化により前年同期比大幅減。

## 売上高・営業利益

	19.3期 中間期 実績(A)	20.3期		前期比 (C)-(A)	当初予想比 進捗率 (C)÷(B)
		通期 当初 予想(B)	中間期 実績(C)		
樹脂製造・ 加工機械	244	620	296	52	47.7%
成形機(連結)	345	650	345	0	53.1%
FPD装置(連結)	85	150	48	△37	32.0%
その他	119	240	99	△20	41.3%
連結会社他	56	140	84	28	60.0%
合計	849	1,800	872	23	48.4%
営業利益	115	200	107	△8	53.5%

## 受注高

(単位：億円)

19.3期 中間期 実績(D)	20.3期		前期比 (F)-(D)	当初予想比 進捗率 (F)÷(E)
	通期 当初 予想(E)	中間期 実績(F)		
338	670	319	△19	47.6%
403	650	291	△112	44.8%
61	150	39	△22	26.0%
201	280	121	△80	43.2%
34	150	95	61	63.3%
1,037	1,900	865	△172	45.5%

売上高は前年同期比で減少。受注高は増加。

売上高・営業利益

	19.3期 中間期 実績(A)	20.3期		前期比 (C)-(A)	当初予想比 進捗率 (C)÷(B)
		通期 当初 予想(B)	中間期 実績(C)		
鍛鋼品	104	170	108	4	63.5%
クラッド鋼板・ 鋼管	90	160	29	△61	18.1%
連結会社他	27	70	29	2	41.4%
合計	221	400	166	△55	41.5%
営業利益	18	20	14	△4	70.0%

受注高

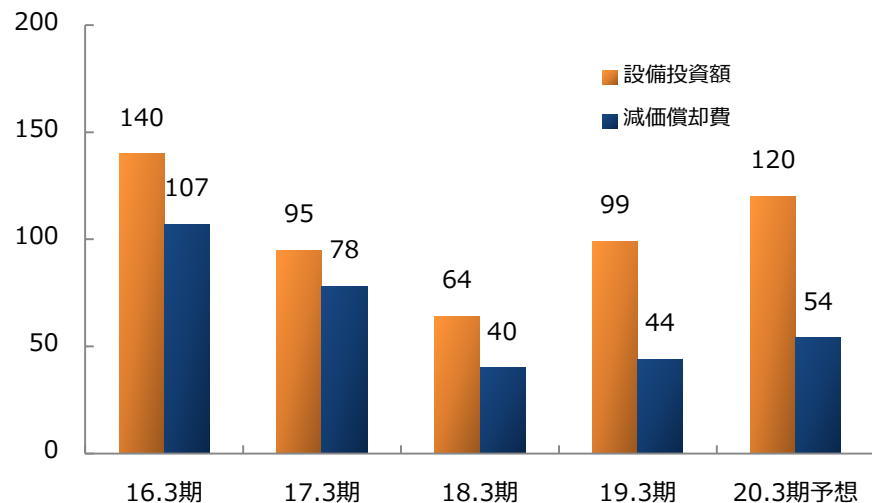
(単位：億円)

19.3期 中間期 実績(D)	20.3期		前期比 (F)-(D)	当初予想比 進捗率 (F)÷(E)
	通期 当初予想 (E)	中間期 実績(F)		
65	180	120	55	66.7%
73	150	93	20	62.0%
27	70	29	2	41.4%
165	400	242	77	60.5%

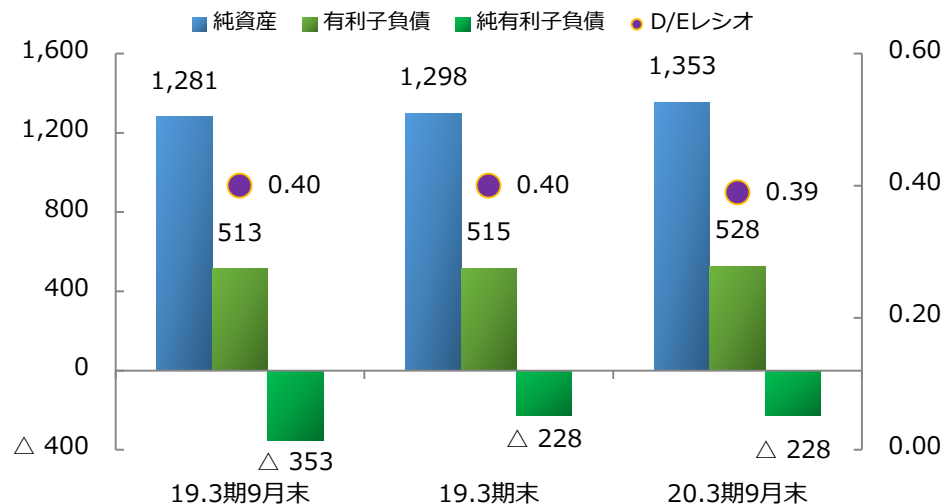
# 2020年3月期 第2四半期：設備投資・減価償却費、キャッシュ・フロー、財務体質、研究開発費の状況

(単位：億円)

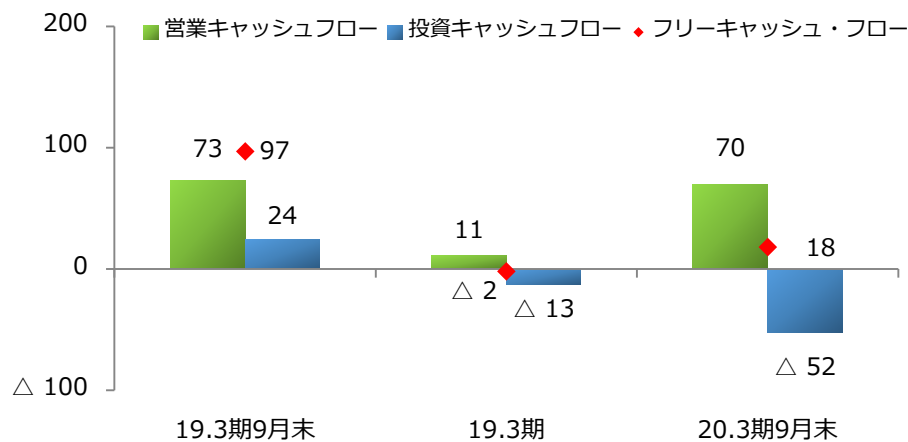
### 設備投資・減価償却費の状況



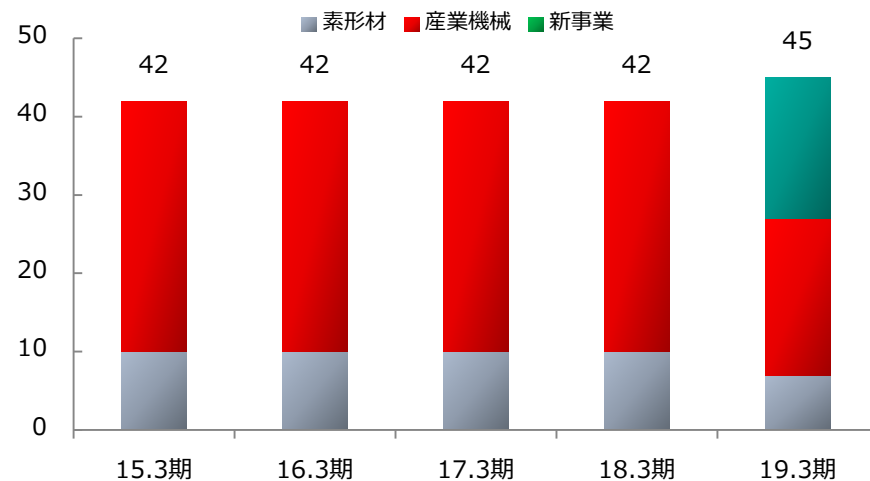
### 財務体質の状況



### キャッシュ・フローの状況



### 研究開発費の状況





# 2020年3月期 通期計画

## PART II



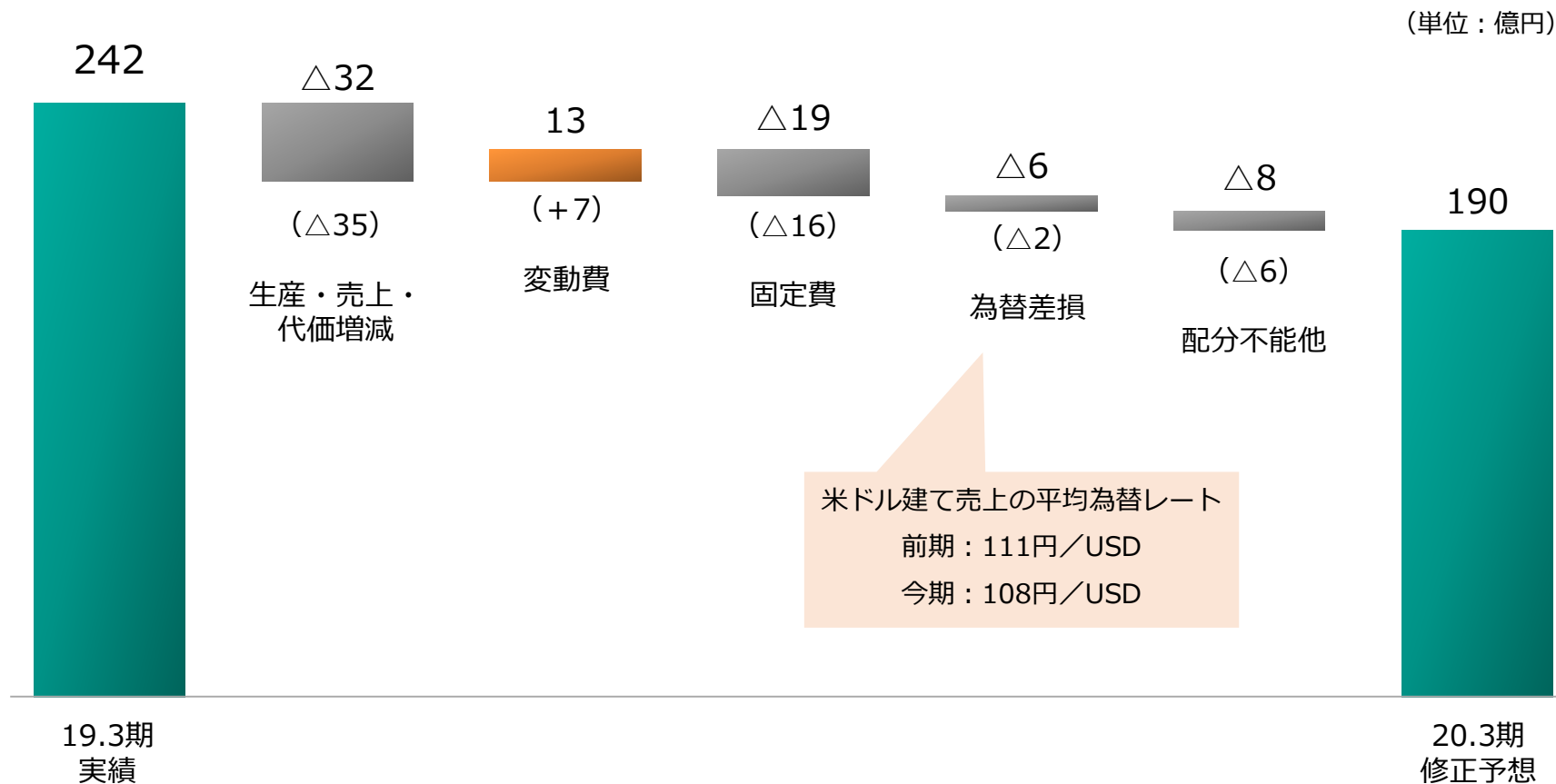
受注高、売上高とも、前年比増を計画。

(単位：億円)

	19.3期 実績(A)	20.3期 予想			前期比 (B)-(A)
		上期	下期	通期(B)	
受注高	2,161	1,128	1,172	<b>2,300</b>	139
売上高	2,201	1,062	1,188	<b>2,250</b>	49
営業利益 (率)	242 11.0%	111 10.5%	79 6.6%	<b>190 8.4%</b>	△52 △2.6%
経常利益	279	121	79	<b>200</b>	△79
純利益	199	52	58	<b>110</b>	△89
1株当たり 純利益 (円)	271.69	70.82	79.00	<b>149.65</b>	△122.04
1株当たり 配当金 (円)	55.0	27.5	27.5	<b>55.0</b>	0.0



生産・売上・代価増減や固定費の悪化によって減益。



※ ( ) 内は前回予想値

両セグメントとも、売上高、受注高の前年比増を計画。特に素形材の受注が好調。

## 産業機械事業

(単位：億円)

	19.3期 実績(A)	20.3期 修正予想(B)	前期比 (B)-(A)
受注高	1,757	1,800	43
売上高	1,736	1,750	14
営業利益	235	200	△35
(率)	13.5%	11.4%	△2.1%

## 素形材・エネルギー事業

	19.3期 実績(C)	20.3期 修正予想(D)	前期比 (D)-(C)
受注高	341	450	109
売上高	412	450	38
営業利益	26	20	△6
(率)	6.3%	4.4%	△1.9%

受注高は成形機の落ち込みを他製品でカバーし、前年比増を計画。

	売上高・営業利益			受注高 (単位：億円)		
	19.3期 実績(A)	20.3期 修正予想(B)	前期比 (B)-(A)	19.3期 実績(C)	20.3期 修正予想(D)	前期比 (D)-(C)
樹脂製造・ 加工機械	525	610	85	593	650	57
成形機(連結)	727	660	△67	706	630	△76
FPD装置(連結)	164	110	△54	60	120	60
その他	204	220	16	281	250	△31
連結会社他	116	150	34	117	150	33
合計	1,736	1,750	14	1,757	1,800	43
営業利益	235	200	△35			

受注高は前年比大幅増を計画。

## 売上高・営業利益

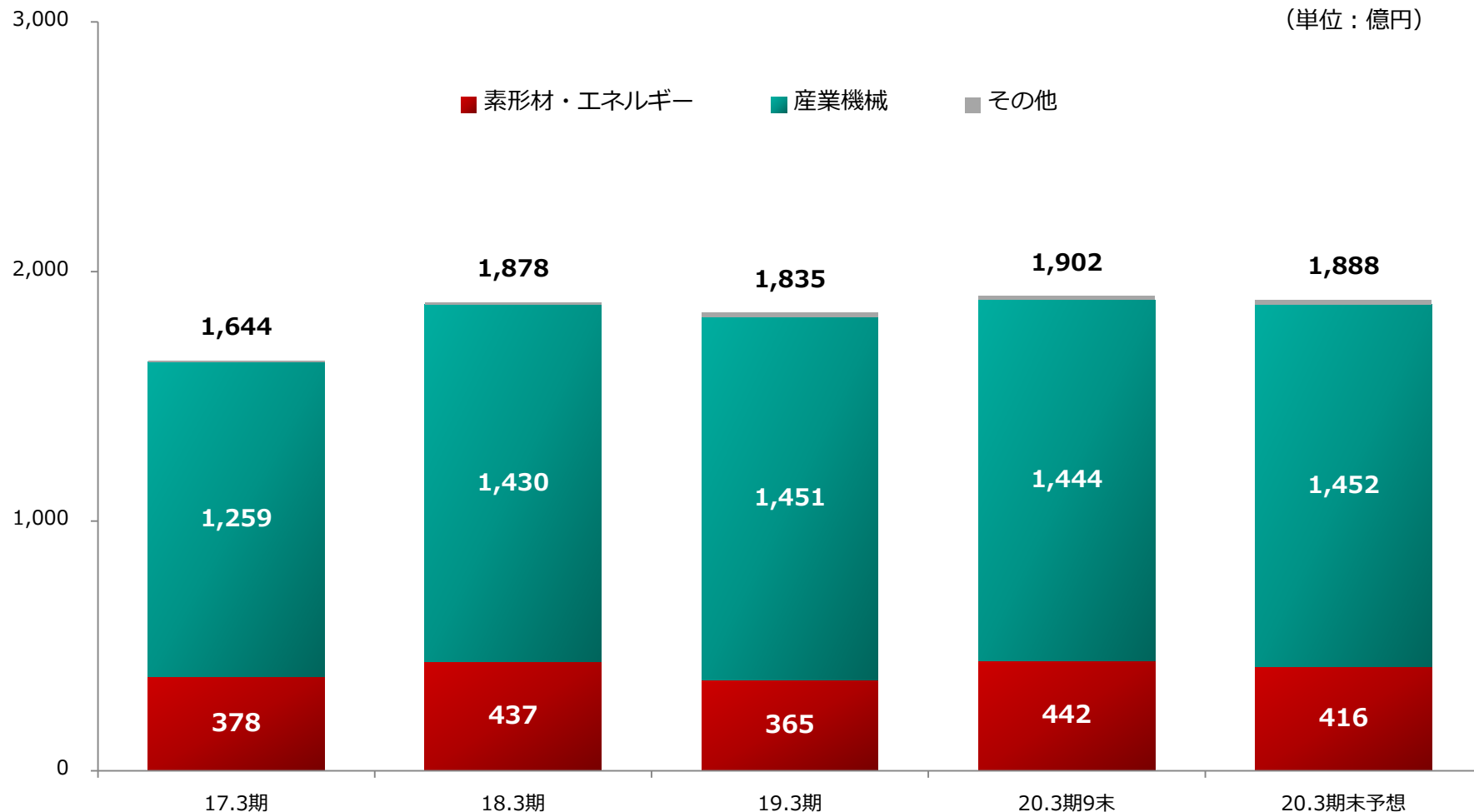
	19.3期 実績(A)	20.3期 修正予想(B)	前期比 (B)-(A)
鑄鍛鋼品	220	230	10
クラッド鋼板・ 鋼管	130	160	30
連結会社他	62	60	△2
合計	412	450	38
営業利益	26	20	△6

## 受注高

(単位：億円)

	19.3期 実績(C)	20.3期 修正予想(D)	前期比 (D)-(C)
	151	210	59
	126	180	54
	64	60	△4
合計	341	450	109

## セグメント別受注残高の推移







# 中期経営計画「JGP2020」と事業概況

## PART III



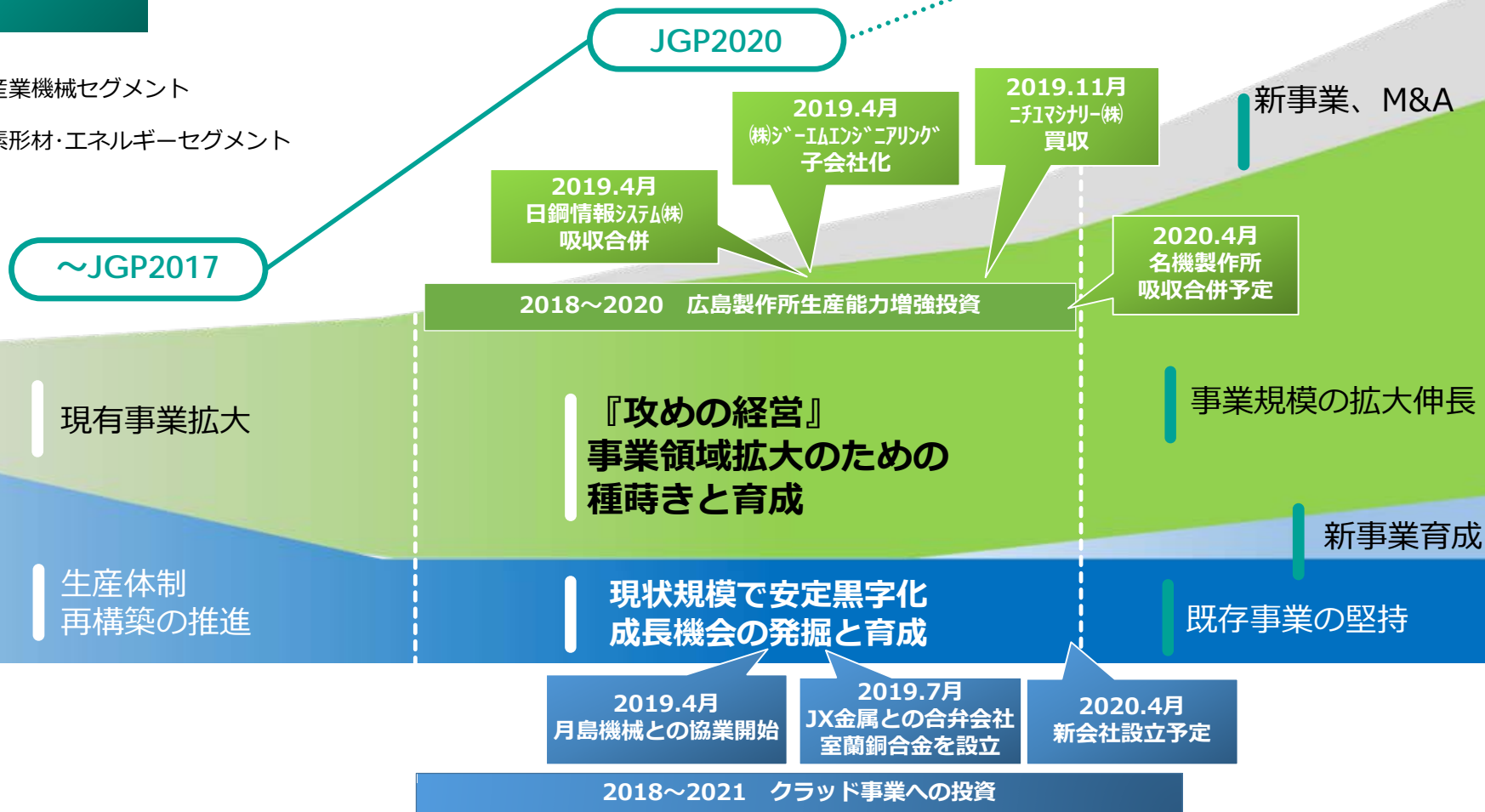
JGP2020

## 新たな成長基盤の整備

「次の10年」でJSWグループの確実な成長を実現させるための基盤整備

→ FY2030

- 産業機械セグメント
- 素形材・エネルギーセグメント



# JGP2020 ~2030年を見据えた基盤作り~

## ◆産業機械で「成長」、素形材・エネルギーは「新生」

### ①経営資源の最適化とアライアンスの強化

経営資源再配分による適正化 ⇒ 産業機械事業へ積極投資、素形材は売上規模に合ったコスト構造へ  
アライアンス、M&Aの推進による事業規模拡大 ⇒ 自前主義からの脱却

### ②アフターサービス(ストック型ビジネス)の強化

産業機械事業を中心にサービス体制の基盤強化 ⇒ 安定収益の確保、顧客満足度向上  
サービス事業を通じた強固な顧客基盤の構築 ⇒ 次の事業への礎作り

### ③新事業探索、育成の活性化

メガトレンドを見据えた新事業探索  
航空機、水素、結晶、成膜 4分野+ $\alpha$ の育成と事業化推進

全社



産業機械事業











連結売上高	1,850 億円
営業利益	210 億円

素形材・エネルギー事業

連結売上高	420 億円
営業利益	25 億円

2021年以降については 現中期経営計画の基本戦略を踏襲し、次期中期経営計画を策定、その施策を進めてまいります。

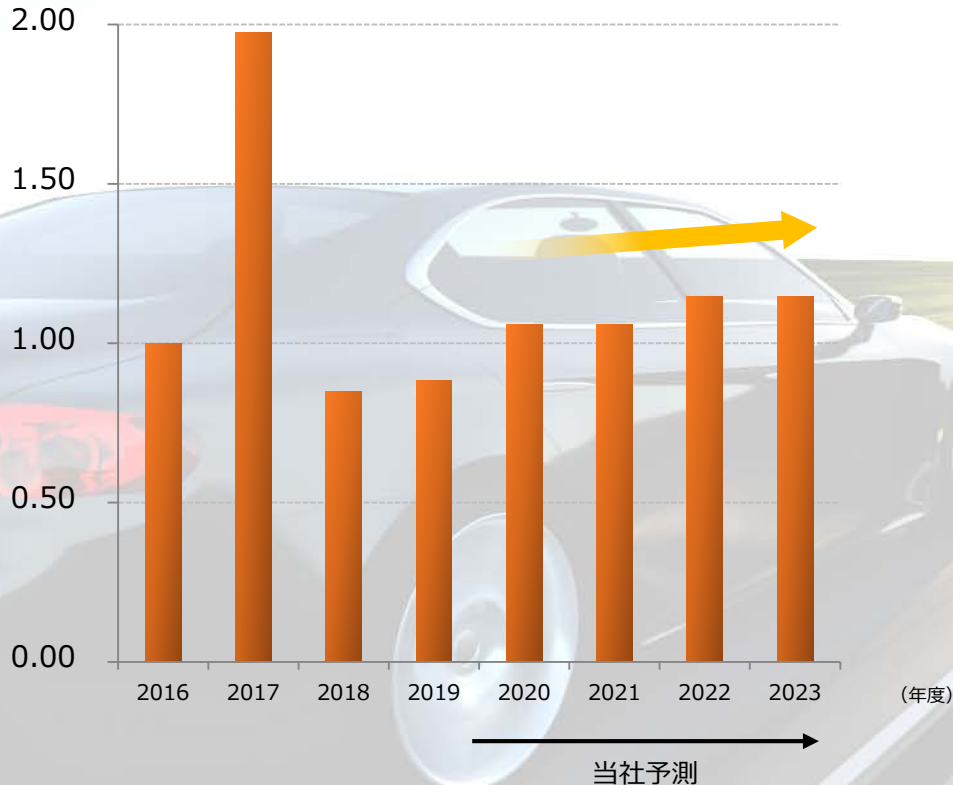


産業機械事業	前回 見通し (2019.5時点)	今回 見通し	受注環境
フィルム・シート製造装置			日本・韓国マーケットは引き続き好調。中国マーケットは設備過剰状況から底入れの兆しが見られ、受注に期待。
造粒機			中国やその他アジア圏を中心にマーケットが好調で、受注が伸長。
二軸混練押出機			5G, EV車用高機能樹脂の市場開拓に動きがみられ、中大型機の受注に期待。
FPD装置			スマホ向け市場に回復が見られるが、受注環境は依然厳しい。5Gや8Kテレビの登場・普及に伴う回復に期待。
成形機			2018年度後半より市況が悪化、未だ不透明な状況。



## 湿式セパレータフィルム装置 年度別市場予測

2016年度を1とした場合の指数



## セパレータフィルム装置の市場環境

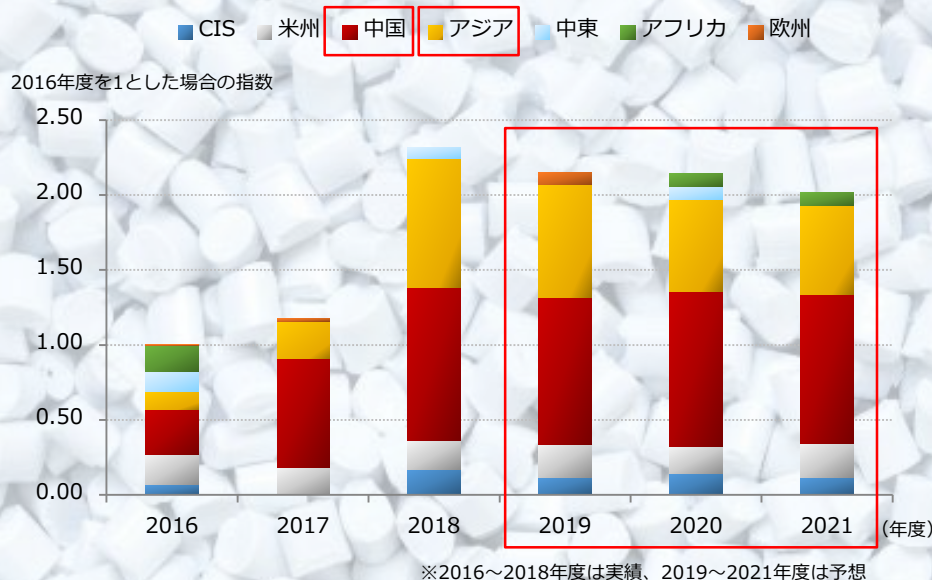
### 1 日本・韓国マーケット

- ▶ 車載用途（ハイエンド品）の需要が堅調。
- ▶ トップメーカーの地歩を固める。

### 2 中国市場マーケット

- ▶ M&Aによる市場整理が進み、過剰設備が解消されつつある。
- ▶ 設備発注  
2019年度は踊り場。  
2020年から緩やかな伸び。

## 地域別市場規模



## 造粒機の市場環境

2016年度と比較して、  
約2倍の市場規模を予測。

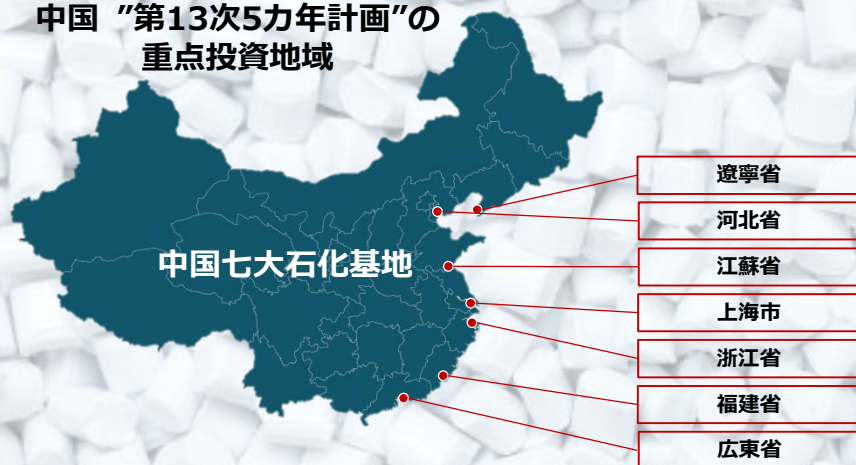


特に中国・アジア地域が好調。

- ▶ 需要供給バランスは中国が圧倒的に供給（生産）不足。
- ▶ 中国では“第13次5カ年計画”が牽引。
- ▶ アジア諸国の新設・増設分も中国への輸出用が多く、今後も好調を維持。

※ 第13次5カ年計画  
2016～2020年の5年間の中国政府公式政策

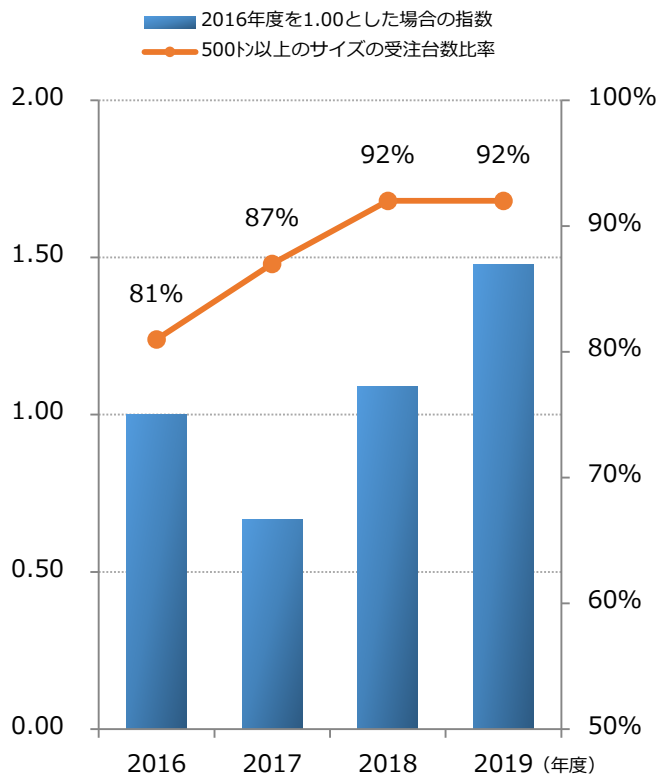
## 中国 “第13次5カ年計画”の 重点投資地域



# 自動車産業向けにニーズが高まる大型機へ対応。

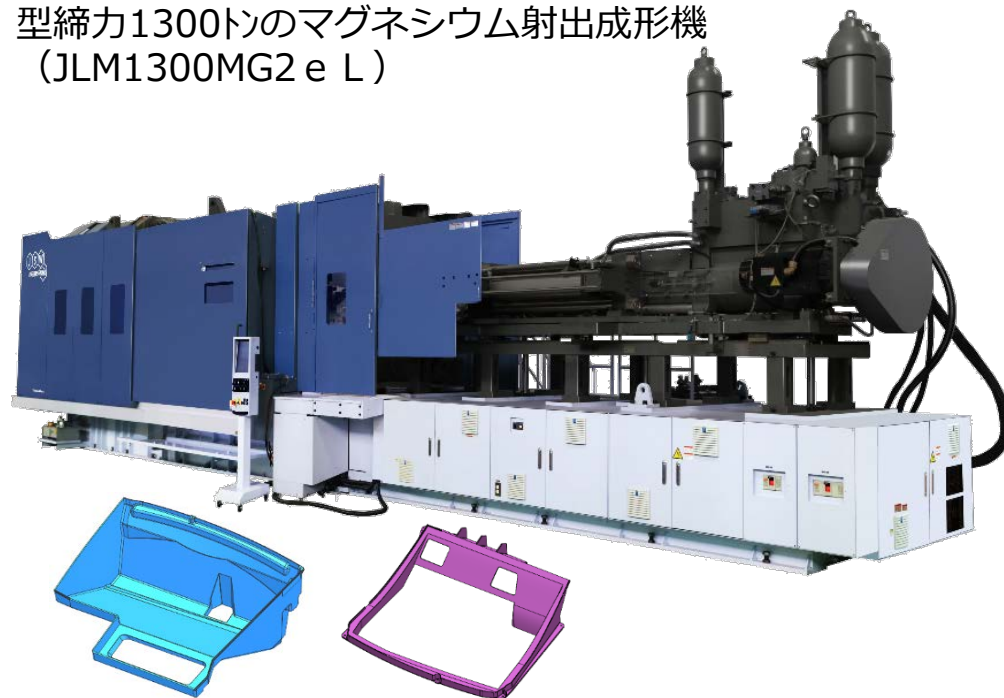
型締力1300トンの大型マグネシウム射出成形機を2019年6月より販売開始。  
更に大型の成形機も開発中。

マグネシウム射出成形機売上



※2016~2018年度は実績、2019年度は予想

型締力1300トンのマグネシウム射出成形機 (JLM1300MG2 e L)



大型ヘッドアップディスプレイユニットのケーシング (略500x400x200)

ヘッドアップディスプレイ部品等の軽量化・放熱特性の改善を通じ、自動車の環境性能向上に貢献。



## 事業ポートフォリオの再構築による収益基盤の強化

# 新生

素形材・エネルギー事業に係るグループ全体を対象に再編を行い、新会社設立。  
(2020年4月設立予定)

### 鍛鍛鋼品

製品ポートフォリオを転換、対応製品を拡充。

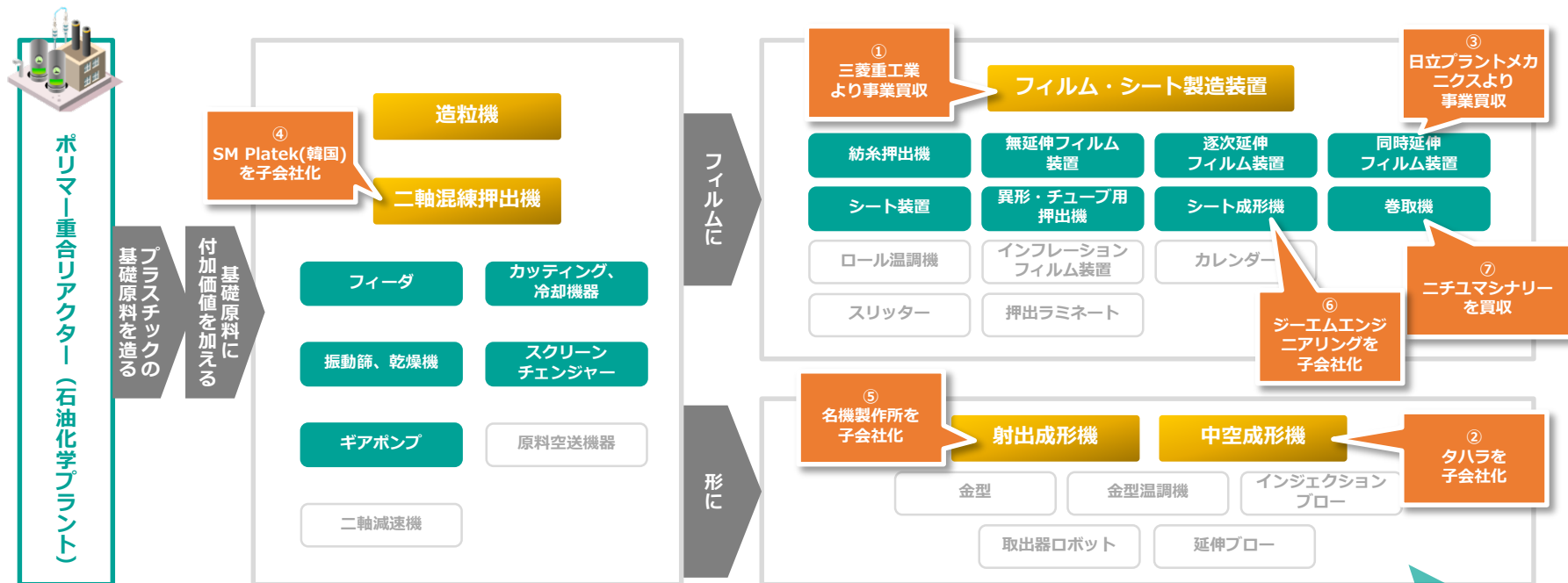
### エンジニアリング・サービス

プラント・インフラ構造物や工事、メンテナンス、試験・検査事業を第3の柱に。

### クラッド製品

効率化投資により、伸長が期待される「強い製品」を更に強化。

## プラスチック加工機械コンプレックスを更に拡大。



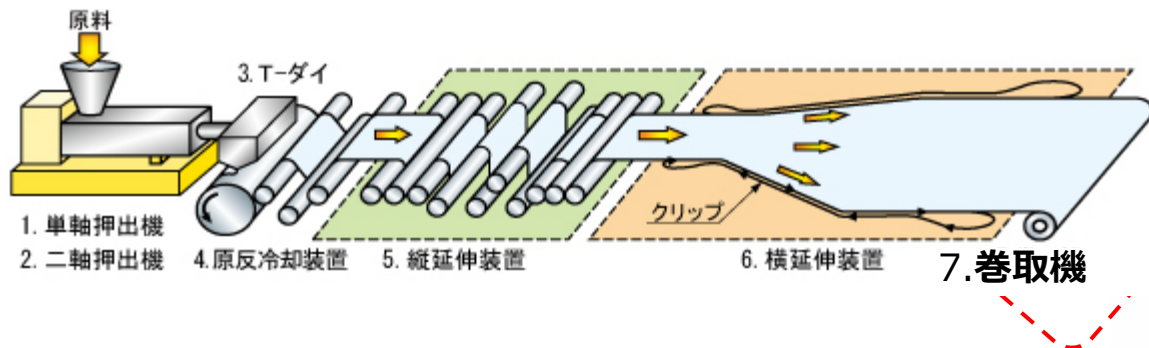
プラスチック機械売上推移



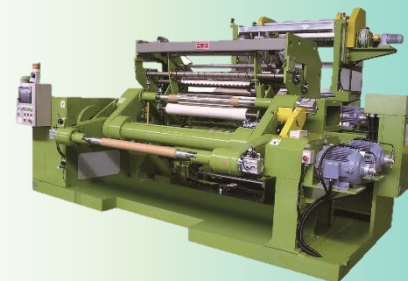
# 巻取機の専門メーカー、ニチュマシナリーを買収。 フィルム・シート製造装置のフルライン提供力を更に強化。

- ▶ 装置全体で最適化された開発・制御を実現し、製品力を向上。
- ▶ 巻取機単体での製造販売により、ビジネスチャンスを拡大。

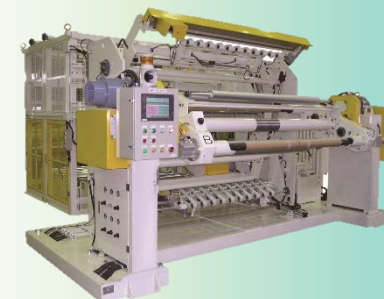
フィルム・シート製造装置 イメージ図



二軸ロータリ巻取機



二軸ターレット巻取機





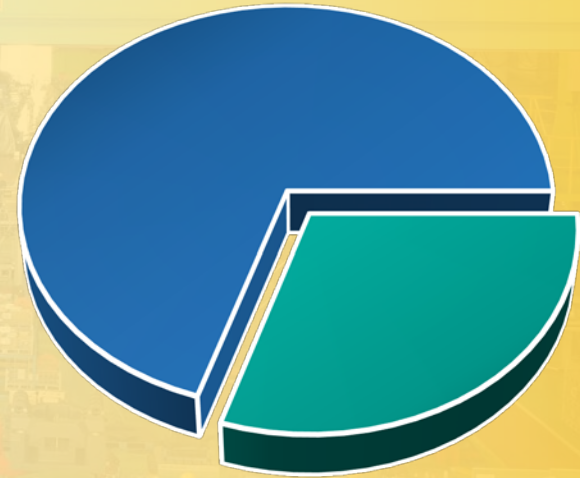
# 産業機械事業のアフターサービス比率を30%以上に

産業機械の売上高に占めるアフターサービス比率



約 20%

2018年実績



30%以上

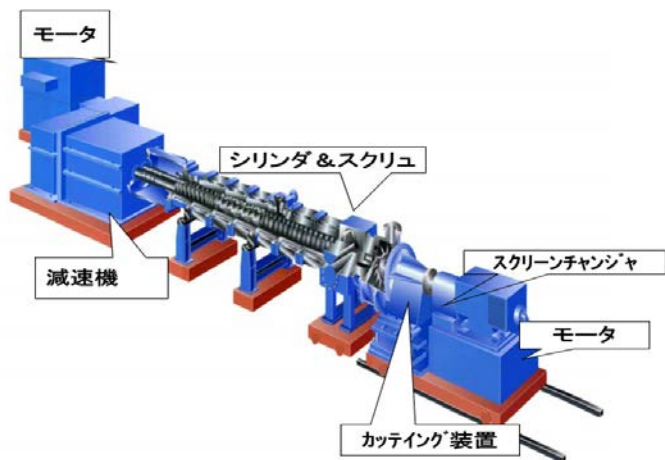
中長期目標

### アフターサービス事業内容

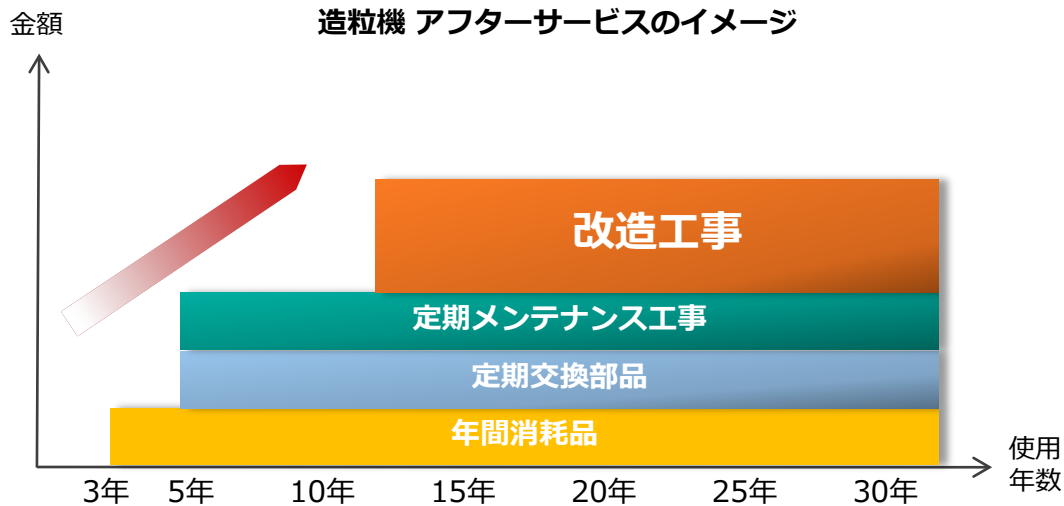
強化へ

サービス内容	生産戦略 在庫戦略	拠点戦略	ソリューション
消耗品、予備品の販売	●	●	
定期メンテナンス (オーバーホール)	●		
最新技術投入の改造	●	●	●
技術コンサルタント	●	●	●
包括メンテナンス契約	●	●	

### 造粒機の場合



造粒機 アフターサービスのイメージ



6分野につき推進室を立ち上げ“事業化”を推進中。



メガトレンド

人口の増加と構造変化  
都市化の進行

テクノロジーの進歩

気候変動と資源不足

メガトレンドを踏まえた未来の社会課題の解決に貢献。  
社会の持続的成長に貢献し、サステイナブルな企業価値向上を実現。

# 「水晶」「LN結晶」の二本柱で情報通信分野の発展に貢献。

室蘭・いわき・中国浙江省の3つの生産拠点体制を整備して  
新たなニーズへ対応。

## ファインクリスタル(株) (FCC)

本社：北海道室蘭市  
設立：1980年8月  
(JSW100%出資)



人工結晶の製造

### 用途

デジカメ用光学  
ローパスフィルタ

センサー

SAW  
フィルタ

水晶  
振動子

etc...

連携

## ファインクリスタルいわき(株) (FCI)

本社：福島県いわき市  
設立：2017年8月  
(JSW100%出資)



ニオブ酸リチウム (LN) 結晶  
の製造

### 用途

デジカメ用光学  
ローパスフィルタ

光変調器用  
基板

センサー

水晶との  
複合材料の開発

etc...

三位一体の事業展開で  
5Gを支える新たな結晶製品  
の開発・事業化を加速

## 捷姆富 (浙江) 光電有限公司(株) (JMF)

本社：中国浙江省海寧市  
設立：2019年4月  
(JSW48%、FCC1%出資)  
中外合資会社

2020年1月より結晶加工事業を本格開始予定



A hand with a finger pointing towards a button. The button is oval-shaped with a metallic rim and contains the text 'FUTURE' and 'START' separated by a horizontal line. The background is dark and textured.

FUTURE  
START

**JSW** 日本製鋼所



# 参考資料





## 素形材・エネルギー事業

旧開示区分 (～FY2018)	新開示区分 (FY2019～)
電力・原子力	<b>鍛造鋼品</b>
クラッド鋼板・鋼管	クラッド鋼板・鋼管
その他	<b>鍛造鋼品</b>
連結会社他	連結会社他

# 売上高・営業利益・純利益の推移

	14. 3期	15. 3期	16. 3期	17. 3期	18. 3期	19. 3期	20. 3期 (予想)
売上高	1,887	1,946	2,233	2,124	2,129	2,201	2,250
産業機械事業	1,183	1,263	1,443	1,593	1,702	1,736	1,750
樹脂製造・加工機械	283	325	364	361	502	525	610
成形機(連結)	470	536	564	576	645	727	660
FPD装置(連結)	-	-	-	-	-	164	110
その他	318	250	326	468	370	204	220
連結会社	112	152	189	188	185	116	150
素形材・エネルギー事業	676	662	748	512	408	412	450
鋳鍛鋼品	-	-	-	-	-	-	230
電力・原子力	226	274	192	193	172	125	-
石油精製用圧力容器	41	42	14	17	10	-	-
クラッド鋼板・鋼管	267	162	393	135	70	130	160
風力発電機	17	57	12	39	16	-	-
その他	72	70	69	53	55	95	-
連結会社	53	57	68	75	85	62	60
その他事業	27	20	40	18	17	52	50
営業利益	88	75	144	123	213	242	190
産業機械事業	121	113	124	151	238	235	200
素形材・エネ事業	△36	△39	7	△28	△15	26	20
その他事業	11	9	20	9	8	3	△30
純利益	55	△53	△166	△49	107	199	110

※20.3期より主要製品別業績の開示区分を変更 / 「電力・原子力」「その他」を「鋳鍛鋼品」として表示

# 主要な財産状況・キャッシュフロー等の推移

	14. 3期	15. 3期	16. 3期	17. 3期	18. 3期	19. 3期	20. 3期 中間期
総資産	2,931	3,196	2,931	2,753	2,974	3,055	3,015
産業機械事業	993	1,084	1,243	1,237	1,281	1,500	-
素形材・エネルギー事業	1,115	1,114	602	375	403	393	-
その他事業	129	130	120	118	117	146	-
純資産	1,392	1,382	1,113	1,075	1,186	1,298	1,353
1株あたり純資産額(円) ※17.3期以降は株式併合後	372.83	368.81	299.41	1,446.44	1,592.47	1,746.91	1,817.04
自己資本比率(%)	47.09	42.72	37.53	38.61	39.36	42.04	44.30
自己資本利益率(%)	4.07	△3.88	△13.46	△4.59	9.59	16.27	-
営業活動による キャッシュフロー	115	115	197	120	267	11	70
投資活動による キャッシュフロー	△57	△26	△121	△135	△50	△13	△52
財務活動による キャッシュフロー	△150	△29	47	△12	△24	△37	△17
現金及び現金同等物の 期末残高	422	491	614	586	778	738	749

日本製鋼所グループは、持続可能な社会の実現を目指す企業として、次の10原則に基づき、国の内外において、全ての法律、国際ルール及びその精神を遵守するとともに、高い倫理観をもって社会的責任を果たしていく。

- 1.持続可能な経済成長と社会的課題の解決を図るために、イノベーションを通じて、社会に有用で安全性に配慮した製品・技術・サービスを開発・提供する。
- 2.公正かつ自由な競争に基づく適正な取引、責任ある調達を行う。また、政治、行政とは健全な関係を維持する。
- 3.企業価値向上のため、適切な企業情報を積極的かつ公正に開示し、幅広いステークホルダーとの建設的な対話を行う。
- 4.全ての人々の人権を尊重する。
- 5.市場や顧客のニーズを製品・技術・サービスに反映した上で、顧客からの問い合わせ等に速やかに対応することにより、社会と顧客の満足と信頼を獲得する。
- 6.従業員の多様性、人格、個性を尊重する働き方を実現し、良好な職場環境を確保する。
- 7.環境問題への取り込みは企業としての重要な責務であることを認識し、主体的に活動する。
- 8.企業市民として、社会に参画し、その発展に貢献する。
- 9.市民社会や企業活動に脅威を与える反社会的勢力やテロ、サイバー攻撃、自然災害等に対して、組織的な危機管理を徹底する。
- 10.経営トップは、この行動基準の精神の実現が自らの役割であることを認識し、実効あるガバナンスを構築した上で、当社および関連会社に周知徹底を図り、あわせてサプライチェーンにも本行動基準の精神に基づく行動を促す。  
また、本行動基準の精神に反し、社会からの信頼を失うような事態が発生した時には、経営トップが率先して問題解決、原因究明、再発防止等に努め、その責任を果たす。